

# 実績報告書

届出者	住所	大阪市北区大深町4-20 グランフロント大阪 タワーA 35F	氏名	さくらインターネット株式会社 代表取締役社長 田中 邦裕
特定事業者の主たる業種		37通信業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		データセンター事業者として、主にコロケーション事業およびホスティング事業を行っており、府内に2か所のデータセンターを運営している。(うち1か所は、平成29年度内に廃止予定)		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間	
平成 26 年	4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 25 )年度	前年度( 28 )年度
温室効果ガス総排出量	9,256 t-CO <sub>2</sub>	8,456 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	10,171 t-CO <sub>2</sub>	9,290 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO <sub>2</sub>	

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (28 年度)	第1年度 (26 年度)	第2年度 (27 年度)	第3年度 (28 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	0 %	0 %	0 %
		削減率(原単位ベース)	0.5 %	14.7 %	13.2 %
削減率(平準化補正ベース)		- %	13.1 %	11.4 %	8.7 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ( サーバラック数 )

(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)

(4)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理

<p>温室効果ガスの削減に関する各対策を継続して実施し、当年度における削減率を達成した。引き続き各拠点にて定めた対策を継続する。</p>
--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

・エネルギーの使用の合理化に関する法律に即し、管理統括者に執行役員、企画推進者に技術本部プロデューサー、管理員として特定事業所にエネルギー管理講習修了者を配し、エネルギー管理推進体制を構築している。  
 ・ビル側と連携を深め、エネルギー使用量のデータ等を定期的に共有し、効率的な使用を追求する。  
 ・温室効果ガス削減の観点のみならず、省エネルギーの観点を持って活動する。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
	レ	GHG排出 人工排熱 平準化				
1	レ	GHG排出	堂島IDC	コード (1216) 空調設備の導 入改善	サーバ室の空調設備について H27. 9. 29より2フロアーにSmartDASHによ る空調制御を導入済。	26 年度 ～ 29 年度
		人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	堂島IDC データ堂島	コード (1218) 天井照明のLED 化	ビル共用部やビル資産設備について、ビ ル側と協議検討し、省電力化に取り組 む。(照明LED化)	26 年度 ～ 29 年度
		人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	堂島IDC	コード (1215) ラックの運用 効率化	ラックに設置されるサーバ機器等の収容 の最適化および省電力器材の導入等によ り、効率の良いサーバラック使用を実施 する。	26 年度 ～ 29 年度
		人工排熱				
		平準化				
4	レ	GHG排出	大阪本社 さくらブラ ンチ	コード (1218) 事務スペース照明をLED照明に置き換える。 省電力化照明 機器の採用	事務スペース照明をLED照明に置き換える。 ・大阪本社：天井照明LED化実施(平成26年度 実施済) ・さくらランチ：天井照明LED化実施(平成 28年度実施済)	26 年度 ～ 29 年度
		人工排熱				
		平準化				
5	レ	GHG排出	堂島IDC データ堂島 大阪本社 さくらブラ ンチ	コード (1113) 事務用PC省電 力設定の運用	事務用PCキッティング時にスリープモ ード設定を実施し、利用者に配布してい る。	26 年度 ～ 29 年度
		人工排熱				
		平準化				
6	レ	GHG排出	堂島IDC データ堂島	コード (1125) ブランクパネ ルの設置	取り出したサーバの空部分をブランクパ ネルを設置し埋めることにより、冷気と 暖気を分け効率的に運用する。 下記と併せ実行。	26 年度 ～ 29 年度
		人工排熱				
		平準化				
7	レ	GHG排出	堂島IDC データ堂島	コード (1125) ブランクパネ ルの設置	空きラックから冷気が漏れないよう、 冷気と暖気を分け効率的に運用する。 ブランクパネルの取り付けを行った。	26 年度 ～ 29 年度
		人工排熱				
		平準化				
8	レ	GHG排出	大阪本社 さくらブラ ンチ	コード (1113) 執務室及び会 議室不在時の 消灯励行	執務室及び会議室等共用スペースに於い て、従業員不在時の部分消灯を励行して いる。	26 年度 ～ 29 年度
		人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
	レ	GHG排出 人工排熱 平準化				
1		GHG排出		コード		年度 ～ 年度
		人工排熱				
		平準化				

(3) その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	東京都千代田区大手町1丁目7番2号	氏名	株式会社 産経新聞印刷 代表取締役 寺塚良一
特定事業者の主たる業種		15印刷・同関連業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		産経新聞社100%出資の関連会社で新聞印刷業です。大阪に3センターあり、産経新聞等の印刷を行っています。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 26 年 4 月 1 日	～ 平成 28 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 25 )年度	前年度( 28 )年度
温室効果ガス総排出量	10,120 t-CO <sub>2</sub>	8,966 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	10,958 t-CO <sub>2</sub>	9,740 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (28 年度)	第1年度 (26 年度)	第2年度 (27 年度)	第3年度 (28 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3 %	1.5 %	0.8 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	1.2 %	0.4 %	11.2 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ( )

(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>現在は3センター共、生産に影響が出ない範囲で建屋設備を中心とした空調チラー・空調設備の運転時間見直しでなんとか目標クリアしている状態です。28年度は北摂センターで受託印刷が開始された為、3センター共 印刷物部数調整が行われており、美原センター分の印刷部数が増えています。29年には大淀センターでも受託印刷開始となっており、受託印刷が増える影響から将来的にはエネルギー増へと変わる事が懸念されます。</p>
---

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

弊社は公共性のある新聞発行を行っている関係上、高品質な新聞を時間通りに読者にお届けする事を最優先としており、生産設備の稼働時間はニュース・号外体制等で大幅に変わります。現状は建屋設備の運用変更などで、毎年少しでも削減できるよう努力してまいります。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	GHG排出	美原センター	コード(1215) 省エネ型の受変電設備	特高低圧配電方式の受変電(年間180,700kw、51t-CO2)	26年度 ～ 28年度
	人工排熱				
	平準化				
2	GHG排出	美原センター	コード(1216) 空気調和設備の運用改善	空調の時短運転(年間77,914kw 22t-CO2)	26年度 ～ 28年度
	人工排熱				
	平準化				
3	GHG排出	美原センター	コード(1216) 空気調和設備の運用改善	冷暖房の制御・時短運転(年間139,304kw 39t-CO2)	26年度 ～ 28年度
	人工排熱				
	平準化				
4	GHG排出	美原センター	コード(1218) 照明の時間短縮	照明の昼間時間帯での点灯時間短縮	26年度 ～ 28年度
	人工排熱				
	平準化				
5	GHG排出	北摂センター	コード(1113) 時間短縮・運転台数の変更	ガス焚き冷温水機(空調用)時間短縮・運転台数の変更	26年度 ～ 28年度
	人工排熱				
	平準化				
6	GHG排出	北摂センター	コード(1216) 空気調和設備の運用改善	冷暖房の制御・時短運転	26年度 ～ 28年度
	人工排熱				
	平準化				
7	GHG排出	北摂センター	コード(1218) 照明の時間短縮	照明の昼間時間帯での点灯時間短縮	26年度 ～ 28年度
	人工排熱				
	平準化				
8	GHG排出	大淀センター	コード(1216) 空気調和設備の運用改善	冷暖房の制御・時短運転	26年度 ～ 28年度
	人工排熱				
	平準化				
9	GHG排出	大淀センター	コード(1218) 照明の時間短縮	照明の昼間時間帯での点灯時間短縮	26年度 ～ 28年度
	人工排熱				
	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	GHG排出		コード		年度 ～ 年度
	人工排熱				

(3) その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	大阪府枚方市春日北町3-1-1	氏名	株式会社サンユウ 代表取締役 西野 淳二
特定事業者の主たる業種		22鉄鋼業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		「事業内容」 ■みがき棒鋼・冷間圧造用鋼線の製造、加工及び販売 ■一般鋼材の販売 ■上記に付随する一切の業務  「工場・営業所数」 ■2工場（枚方・八尾） ■3営業所（枚方・八尾・東大阪）		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 26 年 4 月 1 日～	平成 29 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 25 )年度	前年度( 28 )年度
温室効果ガス総排出量	5,166 t-CO <sub>2</sub>	5,951 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	5,574 t-CO <sub>2</sub>	6,488 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO <sub>2</sub>	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (28 年度)	第1年度 (26 年度)	第2年度 (27 年度)	第3年度 (28 年度)
選択	レ	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ	3 %	2.5 %	-1.8 %	-13.3 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	2.3 %	-1.7 %	-14.5 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (生産数量)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

電気の大半をCO2排出係数の大きい電力会社へ切り替えたため温室効果ガス総排出量が増大した。また、お客様が自動車関連会社に移行しており製品製造の工程が増えていることから電気・ガスの使用量が増えたことも合わさって目標達成が出来なかった。
--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

弊社は2006年6月にISO14001を認定取得し、現在、温暖化対策を初めとした環境改善活動を推進中です。  
活動の内容は、半年毎に「環境会議」を開催し全部門に向けて報告しています。

今後も、エネルギー管理統括者・管理企画推進者を中心に環境改善活動の強化を図る。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	八尾工場	コード (1126) 高効率設備への 設備更新・ 運用方法の見直し	■電灯・電力設備／高効率設備への更新 ■不要個所の電気OFFの徹底 ■熱処理炉／高効率設備への更新	26 年度
	レ	人工排熱				28 年度
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	本社工場	コード (1126) 高効率設備への 設備更新・ 運用方法の見直し	■電灯・電力設備／高効率設備への更新 ■不要個所の電気OFFの徹底	26 年度
	レ	人工排熱				28 年度
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	東大阪営業所	コード (1126) 高効率設備への 設備更新・ 運用方法の見直し	■電灯・電力設備／高効率設備への更新 ■不要個所の電気OFFの徹底	26 年度
	レ	人工排熱				28 年度
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	八尾工場	コード (2113) 自動車使用実績管理・低燃費車の導入	■自動車の使用実績管理の徹底 ■低燃費車の導入・検討	26 年度
	レ	人工排熱				28 年度
2	レ	GHG排出	本社工場	コード (2113) 自動車使用実績管理・低燃費車の導入	■自動車の使用実績管理の徹底 ■低燃費車の導入・検討	26 年度
	レ	人工排熱				28 年度
3	レ	GHG排出	東大阪営業所	コード (2113) 自動車使用実績管理・低燃費車の導入	■自動車の使用実績管理の徹底 ■低燃費車の導入・検討	26 年度
	レ	人工排熱				28 年度

(3) その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	大阪府大阪市北区天神橋2-4-17 千代田第1ビル	氏名	三和電子サーキット株式会社 代表取締役 伊藤 和也
特定事業者の主たる業種		28電子部品・デバイス・電子回路製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		プリント配線板製造		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 26 年 4 月 1 日～	平成 29 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 25 )年度	前年度( 28 )年度
温室効果ガス総排出量	9,348 t-CO <sub>2</sub>	9,669 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	10,488 t-CO <sub>2</sub>	10,835 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (28 年度)	第1年度 (26 年度)	第2年度 (27 年度)	第3年度 (28 年度)
選択	削減率(排出量ベース)	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ 削減率(原単位ベース)	3 %	-1.9 %	-6.4 %	-7.9 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	-1.7 %	-6.2 %	-7.7 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (生産量 m <sup>3</sup> )	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>平成28年度は25年度と比較して生産量が減少したにもかかわらず、排出量が増加している。機械の老朽化に伴い、エネルギー使用量が増加してしまっていることや、生産量に結びつかない規格外製品の増加が原因と考えられる。</p>	
---	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

当社の電気・ガスの使用量の把握を継続して行い、各従業員は一丸となり省エネ意識を持って生産活動を行っております。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	GHG排出	人工排熱 平準化				
1	レ	GHG排出	美原工場	コード (1218) 照明器具を高効率器具、ランプへ順次更新	照明器具778台の9%を高効率照明器具、ランプへ順次更新。	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	美原工場	コード (1215) コンプレッサー電力削減	エア漏れ撲滅、配管圧損の改善、低圧化の実施を行う。(随時継続実施)	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	美原工場	コード (1215) チラー負荷軽減	現在利用している空調用冷水の冷却コイルを延長し、更なるチラーの電力削減を実施。	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	美原工場	コード (1215) コンプレッサー稼働調整の実施	コンプレッサーの稼働を負荷に応じて調整し電力削減を実施。	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	美原工場	コード (1216) 老朽ファンコイル更新	効率が悪化している老朽ファインコイルを順次更新して、ガス吸収式冷温水機の負荷を軽減	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	大阪工場 (第1・第2)	コード (1216) ガスエアコン導入	ガスエアコンの導入を図る。	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	大阪工場 (第1・第2)	コード (1216) エアコンの更新	老朽化のエアコンを入替え、電力の削減を行う。	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
8	レ	GHG排出	大阪工場 (第1・第2)	コード (1215) インバーター式コンプレッサー圧力見直し	コンプレッサーの圧力の見直しを実施し、電力削減を図る。	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
9	レ	GHG排出	大阪工場 (第1・第2)	コード (1218) 通路蛍光灯のLED化	通路の蛍光灯を順次LED化していく。	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
10	レ	GHG排出	S T工場 (桑津・八尾)	コード (1216) エアコンの更新	老朽化のエアコンを入替え、電力の削減を行う。	0 年度 ～ 0 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
11	レ	GHG排出	S T工場 (桑津・八尾)	コード (1216) スポットエアコン清掃	スポットエアコン清掃にて流量確保	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				



12	レ	GHG排出	S T工場 (桑津・八尾)	コード(1215) インバーター コンプレッ サー圧力変更	インバーター式コンプレッサーの圧力を 変更し稼働時間短縮による電力削減。	26 年度 ～ 28 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全事業所	コード(2123)  エコドライブ の推進	事業所の全車がエコドライブを実施する	0 年度 ～ 0 年度
	レ	人工排熱				

(3)その他の抑制対策
